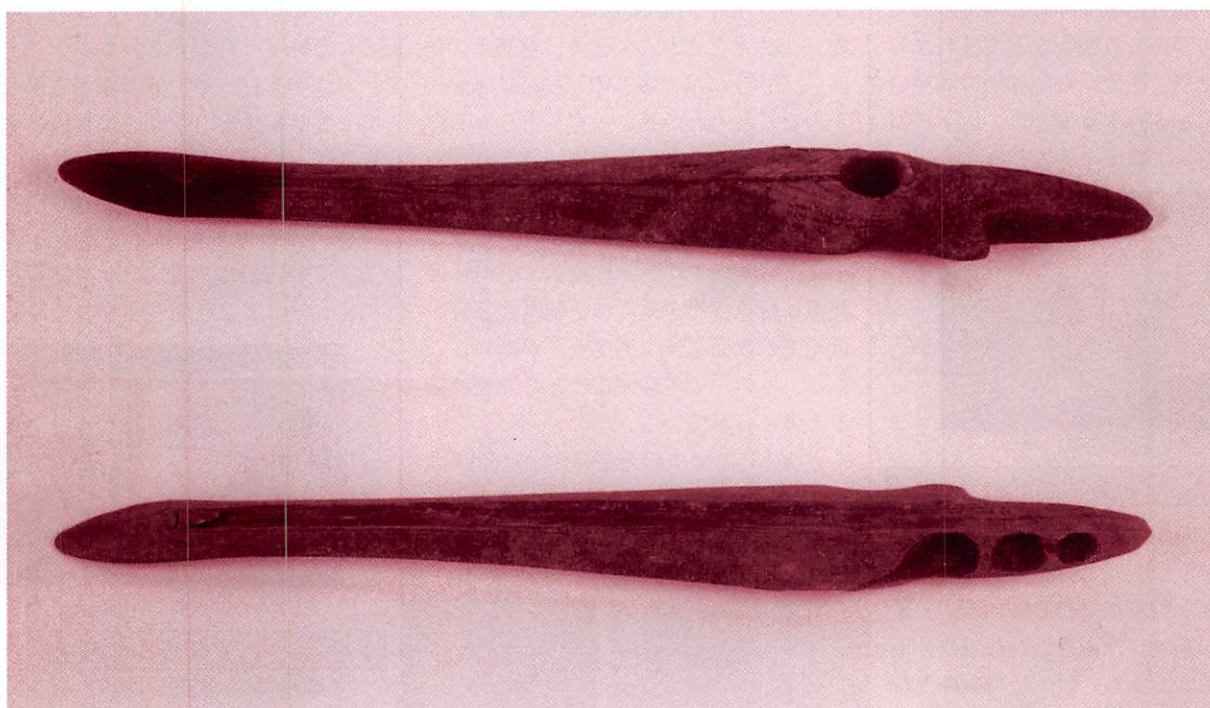


北海道立 *No.49*

## 北方民族博物館だより

## 目次 CONTENTS

- |     |             |                 |
|-----|-------------|-----------------|
| 2～3 | 企画展         | 毛皮一身をまもる技と心一    |
|     | 講座          | レザーとファー（革と毛皮の話） |
|     | 講習会         | 革で動物をつくろう       |
| 4   | INFORMATION |                 |



## H2.54.1 投槍器（45.5cm）

イヌイト アメリカ／アラスカ／イベントク／19世紀初期

投槍器は、銛<sup>もり</sup>や槍<sup>やり</sup>を遠くへ正確に投げるための道具で、木やセイウチの牙<sup>きば</sup>で作られる。陸獣、海獣、鳥類など、さまざまな獲物を狩猟するために使用されてきた。

今号の表紙はイヌイトのアザラシ狩猟用の木製投槍器である。アザラシ類はイヌイトにとって、肉や脂肪を食料に、皮を衣類やカヤックなどの皮船の素材にと余すところなく利用され、しかも通年捕獲することができる獲物であった。投槍器を用いた銛によるアザラシ猟は、海が結氷していない春から秋にかけてカヤックに乗って行われた。この投槍器は、銛の柄の後端の溝を投槍器先端部分の突起に差し込み、銛の柄は投槍器中央の溝に固定するタイプである。獲物を見つけたら「てこ」の原理を利用して獲物めがけて銛を投げる。投槍器後端には手指をかける穴や溝がついており、握りやすく工夫されているため、力が入りやすい。投槍器を用いると銛の威力は倍増される。



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

# 毛皮 —身をまもる技と心—

2003.2.4 (火) -3.23 (日)

寒冷な北方地域で生活するためには、動物の毛皮は不可欠です。毛皮の衣類は寒さやけがなどから身体を保護するとともに、魔除けなどの意味も備えています。

この企画展では、衣類を中心に約90点の実物資料を用い、北方の先住民が毛皮をどのように利用してきたのか、その技術や精神世界に関することを概観しました。また、北方地域でくりひろげられた毛皮取引についても図版などで触れました。あわせて、明治から昭和期の北海道の毛皮利用をふり返りました。以下、展示内容に沿って概要を報告します。



毛皮にふれてみるコーナー

## 毛皮を持たない哺乳類 —ヒト

哺乳類と鳥類は一定の体温をもつ「恒温動物」で、「毛」や「羽毛」は体温を保つのに重要な役割を果たしている。一般に寒冷地の動物は、あたたかな毛皮や羽毛を有する。しかし、ヒトは特定の部位を除いて体毛が退化した。熱帯地域で誕生し、寒冷地にいたるまで地球上のあらゆるところに住むようになったヒトは、他の動物の皮を身につけて自らの体をまもった。

## 毛皮はなぜ暖かい —毛皮の構造

重ね着をすると衣類の間に空気の層ができて体温を逃がさないのと同様に、毛皮も毛と毛の間に空気をためこみ、寒さを防ぐとともに暖かさを保っている。したがって毛の構造や密度は暖かさとの深い関係があり、それらは動物の種によって異なっている。また、同じ種でも、年齢や部位、季節、生息環境によって質が異なるため、目的に応じて使い分けがされてきた。

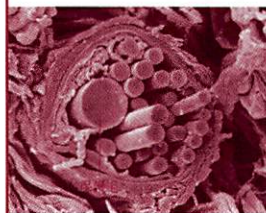
ほとんどの哺乳類の毛皮は、長くて太

い「保護毛<sup>ガードヘア</sup>guard hair」と短くて繊細な「下毛<sup>アンダーファー</sup>under fur」からなっている。保護毛は先端から根元まで真っ直ぐな「刺毛<sup>きしげ</sup>」と、長さは刺毛と同じで下部が下毛のように波状の「中間毛」に分けられる。それらの組み合わせは、種によって異なる。

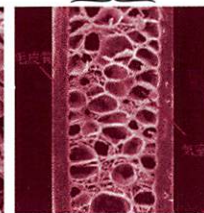
たとえばイタチの仲間では、下の写真のように毛が束になって生えている。クロテンの場合、1つの束に約13本の毛があり、1平方cmあたりの密度は約15,000本とされる。また、保護毛の内部(毛髓質)には、多くの「気室<sup>エアスペース</sup>air space」があることもわかる。一方、あらゆる動物の中で最も毛の密度が高いとされる同じイタチ科のラッコは、1つの束に約35本、1平方cmあたり約150,000本の毛が生えている。クロテンに比べて毛自体は非常に細く、比率的には毛髓質の割合が低く毛の表面部分(毛皮質)が厚い。これは、水の中で生活することと関連が考えられている。

ちなみに、ヒトの毛髪は1平方cmあたり230本、全体でおおよそ100,000本とされ、その密度の違いは圧倒的である。

毛 髓 質



ラッコの毛束  
(1,500倍で撮影)



クロテン保護毛の断面  
(500倍で撮影)

写真・データ提供：近藤敬治氏(帯広畜産大学客員教授、元北海道大学教授、毛衣多様性研究室主宰)

## あたたかな衣類のしくみ

北方地域の衣類は、ゆったりとした作りで空気を多く含む構造になっており、保温性と断熱効果をうまく利用している。頭を覆うフードのついたパーカ型の服は、体温であたためられた空気が上から逃げるのを防ぎ、反対に暑いときにはフードを脱ぎ、首回りなどの開口部を緩めて温度の調整ができるようになっている。何枚も重ね着はせず、毛が着る人の身体のほうに向いた下着(インナー)と、毛を

表に出した外着の2枚だけで、真冬の野外でも十分に活動できる暖かさが保てた。

## 皮を鞣す技術

動物の皮を剥いだあと、そのままでは使えないので、余分な肉や脂肪をかき落とし、皮をもんだりこすったりし、柔らかく腐りにくいように加工する必要がある。皮を丈夫にするために植物のタンニンを使ったり、しなやかにするために脂などを加えることもある。この工程をひろい意味で「鞣し」という。

北方の先住民は、簡素ながらすぐれた鞣し道具を用い、衣類をはじめとするさまざまな皮製品を生み出してきた。女性の仕事のうち、皮の鞣しや縫製にさかれた労力は最も多かったと考えられている。その技術は、現代の工業技術と比べても、決してひけをとるものではない。



トナカイ・アザラシ毛皮製品

## トナカイとアザラシの毛皮

北方地域の伝統的な衣類に最もよく用いられたのは、トナカイの毛皮だろう。もともとシカ類は、北方以外の地域でも食用として代表的な獣で、角や骨も道具に利用されてきた。十分に栄養を摂り、冬毛に換毛した秋が、最良の猟期であり毛皮をとる季節である。衣類はもちろん、袋類や寝具にも用いられ、大きな皮がとれるためにテントの覆いなどにも利用された。

陸のトナカイに対し、海の動物で最もよく利用されたのはアザラシ類である。アザラシは厚い皮下脂肪を持つために、毛皮自体の防寒性は高くないが、防水・耐久性の面で非常に優れている。ひろく靴の素材として利用され、海獣狩猟を盛んに行うイヌイトでは夏用の、ニブフなどサハリンの先住民では冬の衣類にも

## 関連事業

2/16(日)10:00-12:30

講座 レザーとファー（革と毛皮の話）

講師 森下雅代氏（森下造形研究室 主宰）・齋藤玲子（当館学芸員）

2/16(日)14:00-16:00

講習会 革で動物をつくろう

講師 森下雅代氏

使われてきた。固い毛を活かし、スキーの裏側に毛並みを後方に向けて貼ると、前に進むときは滑りやすく、斜面を上るときでも後に下がらないようにすることができ、この知恵は現代の山スキーにも活かされている。



日本人研究者が収集した資料と現地の写真

### 毛皮にこめられた意味

衣類は物理的に身体を保護するだけでなく、社会的・精神的な意味を持つものが少なくない。美しく配色したり飾りをつけることで動物への敬意を表したり、俊敏な動物にあやかって、獲物に恵まれることを願うもの。ハンター(猟師)の腕前を誇示する、ホッキョクグマのような大型獣の毛皮を用いたもの。貴重な動物や特定の部位を使い、着用者の地位を示すもの。病魔などをよせつけない力を持つとされる素材や染色、装飾などが工夫され、作る人と着る人のさまざまな思いがこめられている。

### 受け継がれる伝統

毛皮製の衣類は防寒性が高く、現在でも冬の衣類として先住民に愛用されており、非先住民の探検家や研究者の間でも、化学繊維より優れた素材として極地での探検・調査等に利用されることがある。

また、ふだんは既製の洋服を着ることが多かった現代においても、皮でできた伝統的な衣装は祭や儀礼の際に着用されている。それは、アイデンティティを確認する機会であるとともに、衣類をつくる技術や文様などを受け継ぐ場ともなっている。

### 毛皮交易と北方民族

17・18世紀頃から欧米人がシベリア、アラスカ、カナダ極北部へと進出していったのは、クロテンやラッコ、ビーバーなどの毛皮の獲得が大きな目的だった。

た。それにより、ロシアがシベリアへ東進、イギリスはカナダへと西進、スペインが中南米から北進して、まもなく北太平洋もその舞台となった。北方の先住民文化は大きな影響を受けることになった。



サミのトナカイ毛皮製テントと  
北海道の毛皮製品（奥のケース）

### 明治～昭和期の北海道の毛皮利用

明治の開拓期以降、北海道の移住者の間では、冬山造材や馬追いの作業着として、防寒用の帽子・手袋・袖無し(ベスト)などの裏打ちや、尻皮などに毛皮が利用されてきた。大正から昭和初期には、マントの襟や雪下駄の縁取りにオットセイなどの毛皮が用いられるようになり、ファッションとしても普及していった。また、気候・土地の広さ・飼料の入手などの点で、北海道は毛皮獣飼育に適地であった。軍需と洋装の普及に伴って毛皮の需要が伸びた昭和初期は、外国からの輸入に頼らず、自国での生産が盛んになる時期である。毛皮産業は産・官・学の関係者から注目と期待が集まり、毛皮に関する本や雑誌類も数多く出版された。

\* \* \* \* \*

展示室には実際に毛皮に触れることのできるコーナーも設け、好評であったようです。流水観光のシーズンでもあり、3,424人と多くの観覧者に恵まれました。各関係機関や個人に感謝申し上げます。

### 関連事業

講座の前半「北方民族の皮利用（毛皮を中心に）」(講師：齋藤)では、最初に北方地域先住民の皮利用について、動物の種類・部位別の用途を概観し、特徴を述べた。その後、企画展を順路に沿って解説し、質問等に答えた。

「日本文化における皮革の利用」(講師：森下氏)では、はじめに革と毛皮の

性質に触れ、衣類の素材として織物が普及して以降は、大きく以下の3つの方向で利用されてきたことを示した。すなわち、権威・富・地位の象徴として利用されたもの。装飾性の追及・ファッション性の重視によって発展した染革や重革の技術や漆で加飾・成形されたものなど。そして武器や武具をはじめ、陣羽織や火消しの半纏、足袋など革のもつ特性を活かし実用性を重視した製品の3つである。

次に古代からの皮革の加工技術と製品について概観し、特に近世日本における皮革の輸出入について展開した。なかでも「金唐革」と呼ばれる、鞣し革に金属箔を貼った渡来品と、それを真似た国産の革製品や擬革紙の発展と流通に関し、多くのスライドや実物資料で紹介した。日本の皮革加工技術や利用は、原皮の供給から考えても海外の影響を強く受けるものであった。近世の貿易の記録から皮革製品を追っていくと、北方地域・アジア全域・さらにはヨーロッパに至る世界規模での物の流れが見えてくるようであると締めくくった。



金唐革を手に講話をされる森下氏

同日の午後に開催した講習会では、タンニン鞣しの皮を湿らせて成形するとそのままの形で固定される性質を活かし、この日のために講師がデザインされたヒグマとヒツジのマスコット作りを行ないました。型抜きしておいた牛皮をスポンジで湿らせ、手でつまんだりして形を整えるだけで、乾くと立体的に仕上がるため、小学生から大人まで楽しんで制作していただけたと思います。定員を上回る45名の参加者がありました。

(学芸課・齋藤 玲子)

## ◆就任のごあいさつ

館長 谷本 一之



シベリアのトナカイ遊牧民のところに出かけ寝泊まりするのは、専ら円錐形の棟木をトナカイの毛皮で覆った小屋、「ヤランガ」でした。この北方をシンボライズする三角形の屋根の下で仕事の出来ることを心から喜んでおります。

先輩諸館長のリードの下、館員の皆さんの努力で当館は、北方諸民族研究の拠点として国際的にも極めて高い評価を得てきております。この評価をさらに高めるために、いささかの貢献ができればと思っております。

現今の国際社会の最優先重要課題である民族紛争の解決や差別と偏見を克服するための異文化理解教育、さらには生涯学習社会における現場の一つとして博物館の存在はますます重要なものになってきていると自負しておりますが、特に地元の皆さんに愛される北方民族博物館になるよう一層努力していきたいと思っております。ご協力をお願いする次第です。

## ◆職員の異動

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 退任 (3月31日付) | 館長 岡田 宏明                        |
| 就任 (4月1日付)  | 館長 谷本 一之                        |
| 転出 (4月1日付)  | 主任 工藤 公美子<br>(北海道立理科教育センター主任へ)  |
| 転入 (4月1日付)  | 主事 高橋 義人<br>(北海道小平高等養護学校事務職員より) |

## ◆寄贈資料 2003.1-3

- 網走市の林幸夫氏よりマフラー（ギンギツネ毛皮）1点が寄贈されました。

## ◆寄贈図書 2003.1-3

- 古賀博文2002『気圧配置17』気圧配置編集室
- 藤代節2001  
*Issues in Eurasian Languages(1) : On the Materials from the Collection of the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences : Department of Linguistics University of Kyoto no. 3*  
*The Collected Works OGDO AKSENOVA : Department of Linguistics University of Kyoto no. 4*
- Tshuner Taksami 2002 *ARKTISET SIVLISAATIOT* : Peter the Great Museum of Anthropology and Ethnology, Kunstkamera
- 池谷和信 2002『国家のなかでの狩猟採集民—カラハリ・サンにおける生業活動の歴史民族誌—』国立民族学博物館
- 松浦有一郎 2002『日本の考古ガイドブック』東京国立博物館
- 秋葉実 2002『松浦武四郎上川紀行 旭川叢書28』(株)旭川振興公社
- 榎森進 2002『アイヌの歴史と文化1』『アイヌの歴史と文化』刊行促進協議会
- 「地球の歩き方」編集室 2003  
『地球の歩き方 モンゴル 2003~2004年度版』  
(株)ダイヤモンド社

## ◆行事報告 2003.1-3

- |        |         |            |
|--------|---------|------------|
| 講習会    | 3/2 (日) | かんじきで歩こう   |
| 博物館クラブ | 1/18(土) | 太鼓をつくってみよう |
|        | 1/25(土) | 北方民族の家をつくる |
|        | 3/1 (土) | かんじきで歩こう   |

## ◆みんぞく こうこ はくぶつかん in 北海道

このコーナーでは、当館の活動に関連する分野の新聞記事のうち、道外ではあまり紹介されていない情報を掲載します。

- 1/26(日) 北海道内と北東北の縄文遺跡の遺物や写真などを集めた「北の縄文文化展」が札幌市の北海道庁赤れんが庁舎で開催/AS
- 2/5(水) 国史跡・モヨロ貝塚をテーマとしたフォーラム「チバシリ文化サロン」が網走市で開催/Y
- 2/14(金) 北方領土の探検、調査に尽力した近藤重蔵、最上徳内、高田屋嘉兵衛の偉業を検証する北方領土歴史サミットが根室市北方四島交流センターで開催/AS
- 2/18(火) 苫小牧駒澤大学と白老アイヌ民族博物館がアイヌ文化研究を共同で行う方針/D
- 3/18(火) 釧路支庁白糠町のアイヌのエカシ(長老)たちが自らの文化を次世代に伝えるため、『シラリカコタン—白糠アイヌ文化の継承』を出版/AS
- 3/19(水) アイヌの食料「ウバユリ」の採取から調理方法までを映像に収めた帯広市歴史研究会の研究成果が、北海道映像作品コンクールで優秀賞を受賞/AS
- 3/21(金) 函館市志海苔漁港付近で出土した銅銭「志海苔古銭」37万4435枚が国の重要文化財に指定される見通し/AS

※AS:朝日新聞 D:北海道新聞 Y:読売新聞

## ◆行事案内 2003.4-7

### 特別展/ロビー展

特別展7/19(土)-9/28(日) 先住民社会と水産資源  
-サケ・海獣・ナマコ-

### ロビー展

4/26(土)-5/18(日) ミュージアムコレクション  
「モンゴルの生活と馬具」

5/23(金)-6/15(日) ふわふわフェルト展

### 講演会・講習会・講座

5/18(日) 国際博物館の日記念講座 北方の歌・踊り・遊び

5/24(土) 講習会 フェルトの工作教室

6/6(金)、6/7(土) 講習会 とんぼ玉づくり

7/26(土) 特別展関連講演会

先住民社会と水産資源-サケ・海獣・ナマコ-

### コンサート

5/25(日) 草原のメロディー

～喉歌体験教室と馬頭琴コンサート

7/6(日) アイヌの調べ～OKI(オキ)トンコリコンサート

### 博物館クラブ

7/12(土)、27(日) 土器をつくろう

## ◆観覧者動向 2003.1-3

常設展示	企画展示 (2/4-3/23)	
1月	729	
2月	2,238	1,896
3月	1,889	1,528
計	4,856名	3,424名

## 北方民族博物館だより

—49号—

2003年5月9日

編集・発行 北海道立北方民族博物館

〒093-0042 網走市字潮見309-1

(天都山・道立オホーツク公園内)

TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889

e-mail : hoppohm@ohotoku26.or.jp

ホームページ <http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/>